

雑談は無駄ではない

先日、久しぶりにタクシーを利用した時のことです。「春は、花粉が飛んで辛いですね。」と運転手さんに声を掛けました。すると、「いやぁ、お客さんから話かけられるのは、何年振りかなぁ。」プライバシーやコンプライアンスといった個人の情報を守るのが当たり前になった今、他人とは必要以上の会話をしない習慣が定着してしまったとのことで、私との会話は、運転手さんにとっても思いがけない出来事だったようです。確かに、後部座席はとても広く、テレビやスマホの充電器まで設置されており、まるで書斎の様ではあるものの、間仕切り用の大きなクリアボードは、車内空間を分断し、運転手さんとの距離がとても遠く感じました。運転手さんとの会話は、世間話ではありましたが、初対面とは思えない雑談で意気投合してしまいました。

その昔、「井戸端会議」や「油を売る」など、おしゃべりが人と人とを繋げる手段でした。自分から伝えるべき情報は、会話の割にも満たない無駄話であるのに、お互いの心を通わせる大切な場でした。よく考えてみると、本校が大事にしている挨拶も、それ自体は意味のない言葉ですが、声をかけることで相手の警戒心を解き、人と人とが結びつくきっかけとなっています。ラインやメールで会話を成立させている今の時代、私たちが無駄じゃないかと思いついて入っている雑談は、実は、話す目的も意図も持たないからこそ、人の心の豊かさを表す手立てなのかも知れませんね。

令和8年3月、昨年度スタートさせた第1学年特進コースの宿泊行事を福島県にあるブリティッシュヒルズで実施しました。トピックやテーマを題材にしたレッスンでは、外国人スタッフが分かりやすい単語を並べて生徒と会話し、緊張感だけではなく、英語に対する不安感をも払しょくさせようと、笑顔で問いかけてくれました。必死に耳を傾ける生徒の姿がとても印象的ではありますが、どこかぎこちなさを感じます。ところがレッスンが終わった時のことです。スタッフが生徒にラフな感じで声を掛けてくれました。Hello. How are you today? 一瞬、生徒は驚いたような顔を見せましたが、すぐさま I'm good! And you? と笑顔で応えます。Do you have any hobbies? I like shopping. What's your favorite food? I like sushi! Oh! That's great!!!!

レッスンから解放されたことで緊張も和らいだのでしょう、これまで身に付けた単語だけで十分に通じ、談笑となったのです。

日本では無駄と思われている雑談であっても、海外では、スモールトークと言われ、気持ちの良い時間を共有するための大切なツールだそうです。人と人との距離感は、デジタル機器を如何に駆使しても縮まりません。オンラインでの会話が定着し、これだけ世界との距離が近くなっているのに、タクシーの中であっても人との距離がとても遠く感じます。無駄であっても、目的が無くても、「今日は、寒いですね。」雑談の一步がとても大切な時代になったことは言うまでもないのです。

各レッスン会場では、生徒が笑顔を武器に自分らしさを雑談で表現し、学びの匂いとなって海外のスタッフとの距離を近づけていました。

令和8年3月

